



「夏—花房—」

# 岩崎城だより

No.61

2023/7/1

## 特別展「語り継がれる小牧・長久手の戦いの記憶」

小牧・長久手の戦いについては合戦記内や口伝などにより様々な伝承が残ります。日進市を始め、各地に残る小牧・長久手の戦い由来の伝承を紹介します。

## 館長のおはなし



大河ドラマ「どうする家康」がスタートして6か月が終了し、3クール目に入っていきます。今回は小牧・長久手の戦いに入る前の丹羽家に関する話をしたいと思います。

織田信長が本能寺の変で亡くなった後、岩崎城主丹羽氏次は信長の息子である信雄に仕えることとなります。ところがその翌年の天正11(1583)年、氏次が息子の氏資うじすけを連れ、信雄のもとを去り、浜松の家康のもとへ向かうという出来事が起こります。『東照軍鑑』によると、この年に信雄と対立した弟の信孝しんこうの処遇しよぐう(天正11年4月末頃に切腹)について疑問を持っていると讒言ざんげんをされ、信雄から疑いをかけられたためとされています。

家康は氏次親子に「よく参った」と歓迎し、榊原康政の下につけます。そしてもし上洛することがあれば尾張、三河両国の案内をしてもらうと伝えたとされます。

天正12年、小牧・長久手の戦いが勃発すると家康は氏次に岩崎城の守備を命じ、氏次は岩崎城に入り、城を改修。さらに弟の氏重に岩崎城を任せ、自身は小牧山へ。上洛ではありませんでしたが、三河中入り軍を追う徳川軍の道案内を行うことになりました。

<p><b>「日進市菊花大会 菊づくり講習会」</b> 第2回 7月1日(土) 10:00～ 第3回 8月5日(土) 10:00～ 第4回 9月2日(土) 10:00～ 第5回 10月7日(土)10:00～ (全日受講できなくてもかまいません。)</p>	<p>初心者の方でも大会実行委員が丁寧にお教えします。第2回、第3回と菊の植え替えを行い、立派な大菊を育て上げるお手伝いをします。菊花大会公式ツイッターでも情報を発信します。</p>	
<p><b>「岩崎城刀劇隊 三二剣術道場」</b> 7月9日(日)11:00～/14:00～ 参加無料・定員なし 雨天中止</p>	<p>岩崎城刀劇隊による剣術体験です。簡単な刀の扱い方、剣舞やポーズなどを練習します！「岩崎城侍大将への道」カードも配布しています。参加回数で位が上がるスタンプカードです！本格的な剣術を習ってみませんか？</p>	
<p><b>「にわさきくん」</b> 7月9日(日)、7月30日(日) 11:00～11:15 / 14:00～14:15</p>	<p>にわさきくんがお出迎えます。出陣日にはキャラ印も頒布しています。ぜひにわさきくんに会いに来てください！一緒に写真撮影もしていただけます。</p>	
<p><b>「岩崎城 みんなのぬり絵展」</b> 【募集期間】7月2日(日)まで (定員になり次第終了) 【展示期間】8月13日(日)まで</p>	<p>みなさんにぬっていただいたぬり絵をお城に展示しています！岩崎城マスコットキャラクターの「かんすけくん」「にわさきくん」「ことひめちゃん」や、岩崎城刀劇隊、丹羽家の家紋などのぬり絵があります。</p>	

イベント参加はすべて無料です。ぜひ岩崎城へおこしください。

## 「岩崎城だより」

発行日 2023年7月1日(年4回発行)

編集・発行 岩崎城歴史記念館

〒470-0131

日進市岩崎町市場 67 番地

Tel 0561-73-8825

Fax 0561-74-0046

<http://www.mf.ccnw.ne.jp/iwasakijo>

◆開館時間  
9:00～17:00

◆休館日  
月曜日  
(祝日の場合は開館)  
12月28日～1月4日



# 夏の岩崎城

特別展

「語り継がれる

小牧・長久手の戦いの記憶」

小牧・長久手の戦いについては合戦記内や口伝などにより様々な伝承が残ります。

日進市を始め、各地に残る小牧・長久手の戦い由来の伝承を紹介します。

■展示期間 8月5日(土)～10月1日(日)

■入館無料



## 岩崎城ボランティアガイド

が発足しました！

4月22日、岩崎城ボランティアガイドが発足しました。岩崎城検定中級合格者のみなさんです。岩崎城の歴史(岩崎城の戦いなど)、岩崎城址公園内の説明、日進市内の城跡の紹介をします。岩崎城ホームページからお申し込みください！

詳細、申込はこちら→



わたしたちが  
岩崎城を  
ご案内します！



### 第2回岩崎城歴史講座 小牧・長久手の戦いの きっかけの地「犬山」

小牧・長久手の戦いは、秀吉と家康が戦った唯一の戦いで、真の天下分け目の一戦であるとして発信を続けています。その名前から、小牧・長久手で戦が行われたと思われがちですが、実はきっかけが犬山にあることはあまり知られていません。

そこで、今回の講座では小牧・長久手の戦いの緒戦の舞台である犬山での動きと、令和3年に実施した犬山城大手門枡形跡発掘調査で発見された、戦国期と江戸時代の堀の比較から、小牧・長久手の戦いを考えます。

7月23日(日)13:30～15:00

【募集】7月8日(土)から

参加費無料、定員30名

申込：当館まで

お電話ください。

講師：中野拳弥

(犬山市歴史まちづくり課)



# 岩崎城にまつわる民話

## ◆ 城山の木魚ガエル ◆

岩崎城の戦いで、たくさんの方兵が命を落としました。雨がしとしと降る梅雨の頃、まるで戦死した兵たちの霊を慰めるように山の竹藪の中からカエルたちの鳴き声が聞こえてきます。

ろくろくろく坊 なむあみだ

ぽこぽこぽこぽこ なむあみだ

悲壮な最期をとげた城兵たちの眠るこの場所。

この辺りに住む村人たちの間では、昔から

「お城の山のまわりには木魚ガエルが住んでいる」と言い伝えられてきました。



## 収蔵品紹介

あかいけそんし  
赤池村誌 昭和四十六年

郷土史家・蟹江鉄五郎が赤池の歴史をまとめたもの。江戸時代の地誌から赤池に関する記述を抜き出し、項目ごとに紹介しています。赤池城と城主・丹羽帯刀秀信について記されており、他に赤池城にいた人物として、丹羽十郎右衛門、七右衛門の名が見られます。秀信の息子という可能性もありますが、詳細は不明です。

現在、赤池城の遺構は残っていませんが、中部電力変電所の南に石碑が建っています。昭和21年(1946)の航空写真を見ると、城の地割りと土塁の姿をはつきりと確認することができます。

丹羽秀信が赤池に龍淵寺を創建した当時、

境内の西側に淵があり、そこに龍が住んでいたため龍淵寺と号したそうです。また、寺の崖下から泉が湧き出て、村人はこれを関伽水と呼んでいましたが、次第に大きくなり、関伽池と呼ぶようになったといえます。これが「赤池」の由来とされます。



昭和 21 年頃



赤池村誌